

日・マラーティー語の対照研究・ 日本語教育用基本動詞辞典の作成

代 表 者：プラシャント・パルデシ
(神戸大学文学部講師)

研究共同者：石田英明
(大東文化大学教授)

小磯千尋
(兵庫医療大学非常勤講師)

桐生和幸
(美作大学准教授)

研究成果要約

研究活動概要

本研究は、近年インドにおいて盛んになってきた日本語教育を支援するための教材を作成することを目的としたプロジェクトで、特に西インド・マハーラーシュトラ州の公用語であるマラーティー語を母語とする日本語学習者向けの基本動詞用例辞典の作成を行なった。作成にあたり、インド国内で使用されている3種類の日本語教科書に収録されている236語の動詞と日本語能力試験語彙リストの4級と3級の動詞257語から重複を除く307語、および、これらの動詞の自動詞他動詞のペアを含め376語を今回の見出し語として選び、語義、類義語、ヴォイス・テンス・アスペクト・モダリティーといった文法や語法に関する情報を盛り込んだ日本語での下原稿を作成した。その後、原稿データを共同執筆ツールである Wiki データに変換し、ウェブ上で内容の校正とディスカッションを行ない、修正後のデータをすべてマラーティー語に翻訳した。同時に、マラーティー語との対照的な観点で分析を行い、それについての情報をデータベースに追加していった。

対照分析については、「トットちゃん」のマラーティー語版と日本語版とを比較することで、受動態や他動詞文型の現れ方についての調査を行なった。

最終的に、Wiki から XML データと LaTeX データに変換し、XML データは、プネー市の日本語教師および学習者からの意見をもらえるように構築したディスカッション用ウェブサイトへ HTML に変換し公開している。また、LaTeX データから成果報告書として提出している「日本語・マラーティー語基本動詞用法辞典」を作成した。

研究上マラーティー語と日本語の対照研究が必要なため、12月にインドにおいて、現地の日本語教師および学習者に対してセミナーを開き、辞書プロジェクトの説明、および、対照研究の観点からディスカッションを行なった。

成果概要

本研究の成果は3点ある。第一の成果は、本来の目的である「日本語・マラーティー語基本動詞用法辞典」である。本辞書は、376語の基本動詞について語義の説明に加えて具体的な例文を挙げてあるのみでなく、個別の語義および共通する語法についても多くの動詞について記述、また、マラーティー語話者向けにマラーティー語との対照研究の成果も盛り込んだ。第二の成果は、インドにおいて、現地の日本語教師および学習者に対してセミナーを実施し、対照言語学的な観点からの日本語学習の重要性を伝えることができた点にある。また、セミナー後参加者からウェブサイトの掲示板を通じてコメントをもらい、

そのうちのいくつかに関しては、辞書印刷に間に合う範囲で生かすことができた。第3の成果は、複数の執筆者による同時進行での辞書執筆の基本的手法を確立できた点にある。ウェブ上にデータベースを構築して、そこで執筆者が自由にデータの加筆修正が行なえ、かつ、疑問点を共有し意見交換できる仕組みを利用することで、従来の執筆では、時間のかかる校正作業をかなり短縮して行なうことができた。さらに、単一のデータベースからウェブ用のデータと出版用のデータへと変換する仕組みを構築し、出版にいたるまでの過程の大部分を執筆者側でコントロールでき、かつ、安価にできるシステムを開発した。

成果活用について

作成した辞書は、現在インドではまったく類を見ず、学習者にとって大変有用であると言える。辞書は、5月にインドへ送り、現地の日本語教育関係者を通じて配布してもらう。1年という短い期間で作成したため、まだ改善点が多くあるので、実際に現地の日本語教師や学習者に配布し使用してもらい、多くの関係者から意見をもらいながら、内容をより正確で充実したものにしていく。現在、そのための意見交換の場としてのウェブサイトを公開中である (<http://wamakidoujiten.lit.kobe-u.ac.jp/discussion/>)。

今後の研究課題

今後は、辞書の使用者からの意見をもらい、辞書の内容をさらに充実させることと、日本語能力試験の1級や2級といった中上級レベルの対象語彙にまで拡大し、最終的に出版物としてインドでの出版を目指している。